

令和6年度第1回かめおか霧の芸術祭実行委員会

日 時 令和6年5月15日
10:00~12:00
会 場 市民ホール

司会：事務局次長（文化芸術課長）

【開会あいさつ】 桂川顧問

（委員長）

まず、議題の一番でございます。

「令和5年度事業報告及び決算報告」につきまして、事務局から説明をお願いいたします。

【事務局から事業報告】

（委員長）

ただいま説明をいただきました内容につきまして、委員の皆様からのご意見或いはご質問をお受けしたいと思います。いかがでしょうか。

（委員）

様々なところでイベントを行っておられますけれども、まだまだ知名度が少ないなという気がします。また、東京ビッグサイトにてイベントを行ったということですが、このビッグサイトで出展されて、どのような成果があったのかということに対して、少し経過を報告いただきたいです。

（顧問）

これはオーガニックライフスタイルエキスポと言って、亀岡市が進めている有機農業のPRをするイベントになります。霧の芸術祭の関係する方々に、出展のパネルですとか、全体の会場のコーディネートとか、そういうところを農林振興課の方から委託をして作っていただきました。実質は農林振興課の事業なのですが、行政がそれを作り込むのは、ノウハウありませんし、技術的な問題があったりしますので、そういう面で霧の芸術祭に関わるアーティストの方に協力をいただいて、パネルだとか展示ブースを設置をしたということでございます。同じようにSDGs創生課の方では、SDGsウィークエキスポというのがあって、同じような形で展示をし、そこではこの霧の芸術祭から生まれたHOZUBAGの販売ですとか、亀岡市のPRだとか、SDGsにかかる取り組みを発表してきたということでございます。霧の芸術祭の直接的な発表ではなく、それぞれ農林振興課やSDGs創生課の事業をするにあたって、霧の芸術とのコラボによって、そういう発表の展示の協力をいただいたというのが現状でございます。

（委員）

そういったイベントの際に、「霧の芸術祭支援」のような、そういうふうな記載っていうのはあるのでしょうか。

（顧問）

もちろんそういうものも含めて、当日会場にはですね担当職員が二、三名、出張して行って会場設営をし、来られた方々に説明しますので、その中でこういうブースには芸術祭に協力いただきながら、こういうものを作って展示していると説明をしております。

(委員長)

他の皆様ご意見いかがでしょうか。

(委員)

先ほど霧の芸術祭があまり認知されていないという意見がありましたが、このアーカイブブックを見れば霧の芸術祭の構成が一目でわかるようになっていると思います。前半の部分が、1年通じて様々な場所で行われている霧の芸術祭の活動を、そして後半は、城跡芸術展という形で会場と期間を設定した展覧会を紹介しています。先ほどのこの決算の事業報告でも、このアーカイブブックを利用して、ほぼ全てが説明できるような形にまとめられており、すごくすばらしいと思います。

このようにアーカイブされたものがあることによって、全てのイベントに参加することが出来なくても、後で見返すことが出来たり、各イベントのつながりを知ることが出来たりすると思います。だから、掴みどころがないというのは事実なんですけれどもそれも大きな特徴の一つなのではないかなと思います。

(委員長)

ありがとうございました。

もし他にご意見がないということでございましたら、議題1、令和5年度事業報告及び決算報告につきまして、ご承認をいただけます方は拍手をよろしくお願いいたします。

【拍手】

(委員長)

ありがとうございます。

拍手多数ということで、原案の通りの承認とさせていただきます、議題の2に移らせていただきます。

令和6年度事業計画案及び予算案につきまして、事務局から説明をお願いいたします。

【事務局・スタッフのアーティストから事業計画の説明】

(委員長)

ありがとうございました。

今大変多岐にわたります説明をいただいております。

委員の皆さんからのご意見ですとか、ご質問がありましたらお受けしたいと存じますがいかがでしょうか。

(委員)

昨年度に事業の見直しというようなことが総合プロデューサーの松井さんの方から少しあったと思うんですけども、今年度の事業計画の中で、何かその辺について話し合いがありましたでしょうか。

(総合プロデューサー)

はい、ありがとうございます。

事業の見直しに関しては、年間に74から75ぐらいの、いろんなイベント、ワークショップ、講演会等々を重ねてきて、数がかなり多いと考えています。

今のスタッフも霧の芸術祭だけをやっているわけではなくて、様々な仕事も抱えてまして、なかなかこのまま続けていくのは難しいと考えています。

要するに持続可能性ということを考えるとできるだけコンパクトにしていきたい。

コンパクトにするにあたって、まず城跡芸術展。これは市民にもすごくわかりやすいですし参加者も短期間でたくさんの方に来ていただけますので、これをもっと成長させていきたいとい

うことが1つあります。

それと、KIRI CAFE ですね。KIRICAFE は、この霧の芸術祭が始まる一番初めに作った拠点であり、交流拠点という形でこれまで運営してきていますけれども、その交流に関して、より広範な交流にしていきたいということで KIRICAFE の中身を充実していきたいということが1つありました。

それともう1つ、色々なワークショップや、講演会がたくさん出てきた方がいいんですけども、どこに向かっていっているのかははっきりしないということで、それらのものを城跡芸術展の方につなげていきたいと考えています。

このように城跡芸術展と KIRICAFE に様々なイベントを集約していきたいと考えています。

（委員）

城跡芸術展に関して、今現在大本さんには非常に協力的にいただいているが、いつまでも今のままでは出来ないのではないのでしょうか。城跡芸術展を今後発展させていくにあたってそういったことも視野に入れ、新資料館構想なども含めて大きなイベントにしていっていただきたいと思っていますが、その辺りはどうでしょうか。

（総合プロデューサー）

確かにその通りですが、出来ることならば城跡は市民の集まりやすい場所でもあるので、城跡を中心とした芸術祭を作っていきたい。

そこ以外にも新しい資料館や、緑化フェアで作られる 14 ヘクタールの場所というのも活用して城跡芸術展を展開させていきたいと考えています。

（顧問）

先ほどいつまでも大本さんのもとでは出来なのではないかという意見がありました。そういった面もちろんあります。しかし、大本さんは「芸術は宗教の母」という理念を持っておられるので、そういう面では理解と協力はいただけるのではないかというふうに期待をしております。

それと合わせて亀岡市では、文化資料館を新文化博物館にするプロジェクトを進めております。今年度の機構改革で教育部局にあった文化資料館を市長部局に動かしまして、私が直接具体的な計画を進めていく心づもりをしております。この資料館では今までは歴史的な文化財のみの収蔵、展示を行っていましたが、新資料館では芸術も取り入れていこうと考えています。ですので、この新資料館も新たな芸術拠点となるようにしていきたいと考えております。

（委員長）

ありがとうございました。

他の委員のご意見いかがでしょうか。

（委員）

決算の支出のところに、運営スタッフ報酬が 71 万と記されており、これだけでは判断することは出来ませんが、それがやはり報酬として魅力的でなければ、やりがいだけで人を集めているようなところになってくると思います。

やはりそこはスタッフの皆さんの生活も支えられるような報酬にして頂ければよいなと思います。

（総合プロデューサー）

予算全体のことを見ていくとなかなか難しい部分もありますが、今まではやりがいと繋いできた部分も大きいです。生活を保障するとまではいなくてももう少し人件費を考えていかなければならないと考えています。その為には生み出しているものを数値化して、評価していただく必要があると考えています。

（委員長）

お時間迫っておりますけれども他の委員の皆様からも、ちょっとご意見なり或いはご感想などでも結構ですのでいただきたいと存じますが、まずは霧の芸術祭で連携を深めていただいております亀岡高校、南丹高校の校長先生、お越しいただいておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

（委員）

本校は京都府立高校で唯一の芸術系の学科ということで、最近非常に人気でして、今回はこの亀岡、南丹、京丹波以外の入学生が半分を超えました。

1年生に面談をしたところ、霧の芸術祭も含めた色々な地域との連携が、魅力的であるということと志望した理由に挙げられている生徒がとても多かったということを聞いています。

そういう点でもいろいろな形で、開かれたアトリエでの展示、展覧会もそうなんですけれども、今年度もお世話になりたいというふうに思っておりますので、どうぞよろしくお願い致します。

（委員）

本校の場合は総合的な探究の時間というところで、探求活動でネットばかりに頼らずにいろんなところと連携をして取り組みを、研究活動していこうというふうに考えています。

生徒たちは、私たちが想像もしていない案を持ってきますので、霧の芸術祭の皆さんにお世話になりながら形にしてきました。

また、外へ発信する場を与えて頂くというのも子供たちにとって大変良い機会であると考えています。今年度も引き続き、生徒たちと一緒に活気ある亀岡市を目指していきたいと考えております。

（委員長）

千歳町そして旭町の自治会長様もお見えになっておられます。一言よろしく願いいたします。

（委員）

この霧の芸術祭はせっかく立ち上げたのであれば続けていける芸術祭を目指していただきたいと考えています。その為には市民と芸術祭が近いものになっていく必要があると思います。直に作品と触れ合うことが出来る環境というのは非常に大事だと考えていますので、今後ともよろしくお願い致します。

（委員）

旭町はまさに農業中心の地でございますし、霧の芸術祭の最初のコンセプトが農業と芸術であると聞かせていただきまして、成る程なと納得しました。旭町も若い方々が就農にいらっしゃっていて地域を活性してくださっています。また、オーガニックの学校も旭小学校の跡地に開校されまして、大変感激したことを覚えています。

こういった芸術祭の中で、農業を重要な位置に置いていただけているというのは大変ありがたいので、自治会としても、一緒に勉強させていただきながら協力させていただきたいと考えています。

（委員長）

教育委員会の川口次長よろしく願いいたします。

（委員）

令和6年4月から育親学園という、義務教育学校が新たにスタートいたしました。その中に、ふるさと科というものがあまして、その中で子供たちがふるさと亀岡を知り、そして学びそして発信していくというような形で、今進めています。例えば食育でありますとか、木育であ

りますとか、そのような部門も含めて、今いろいろな教育課程を組んでいるところであります。現在でも3週間に1度ほど、育親学園検討会議という形で今後の学園について話し合いを進めておりますので、その中でこの総会での話題を出させていただいて何か新しいものを作り出していきたいと考えております。

(委員長)

幹事としてお世話になっております豊田さん、よろしければお願いいたします。

(委員)

我々企業も昨今はどのような企業であるかということを見せていく必要があると考えており、アートの要素で企業イメージを作っていくのも大事なのではないかと考えています。そういったところで霧の芸術祭のノウハウを生かしていただくことで、新たな事業展開もできるのではないかと思います。

(総合プロデューサー)

緑化フェアのときに、ぜひ保津川を使った何かが出来ないかなということを考えています。緑化フェアにおいて大切な水という要素を担うのは保津川であると考えています。そういった点で是非ご協力頂きたいと思っています。よろしくお願いします。

(委員長)

続いて、森の京都DMO様よろしくお願いします。

(委員)

目的の第2条に発信と書いてあるが、これは凄く大切なことだと感じています。情報を広く薄く発信するのではなく、求めている狭い層にピンポイントに発信していく必要があると考えておりまして、修学旅行などに関してもそうですが、京都市内というのは修学旅行生で飽和状態になっています。その為、様々な学校が新しい修学旅行先を探しているのが現状です。そういった情報を求めている層に向けた発信を行っていかなければならないと考えています。

(委員長)

続きまして谷口様お願いします。

(委員)

よろしくお願いします。

霧の芸術祭の名前は知っていたが、このように詳しい報告を聞くのはこれが初めてだったため、持ち帰ってSNSであったり例会などで宣伝していきたいと感じましたし、また、何かでコラボレーションしていきたいと考えていますのでよろしくお願いします。

(委員長)

上田副委員長お願いいたします。

(副委員長)

色々な方が集ってこの霧の芸術祭を形作っていて、スタッフの方にも色々な考えの方がいらっしゃるからこそ、このような広がりを見せているのではないかと考えています。また、事業という考えで行くと、数字的な目標が無いとマンネリ化するのではないかと思います。収入というものを設けてはいけないとは思いますが、何か数字的な目標があっても良いのではないかと思います。

(委員長)

議題2、本年度の事業計画予算計画案にご承認いただけるということでございましたら、どうぞ

拍手の方よろしく願いいたします。

【拍手】

（委員長）

ありがとうございました。

（顧問）

最後にいくつか要望をお願いしたいと思います。

1つ目がここにいるメンバーは芸術家でありまして、プロデューサー、ディレクター名前は様々ですが、もし、何か必要なことがあれば彼らに委託をして頂いて、民間の仕事を行うということになっても面白いと思います。

2つ目なのですが、市美展との連携をさらに強くしていきたいと考えています。昨年度までは所管が違いましたが、今年度の機構改革によって市美展も文化芸術課の管轄になりましたから相互に連携を取っていきたいと考えていますのでご協力お願いします。

最後に緑化フェアに関することなのですが、亀岡と薬草というものには歴史的に深いつながりがありますから、ハーブといった物もしっかり取り入れて行っていただきたいと考えています。

（委員長）

本日の議題がすべて終了しまして、進行の方は事務局の方へかえさせていただきます。

（事務局次長）

皆様、様々なご意見を頂戴してありがとうございました。

それでは閉会にあたりまして、松井総合プロデューサーからご挨拶をいただきたいと思います。

（総合プロデューサー）

今日はどうも皆さんありがとうございました。

委員の皆様からの貴重な意見によって霧の芸術祭を行うひとつの目的をはっきりさせていただけたと考えています。この霧の芸術祭からH O Z U B A Gやかめ焼きなどが生まれ、株式会社となりました。まだまだ会社としては未熟な部分も多いですが、それを支えていける土壤がかめおかに出来つつあると感じています。ですので、今後そういった支援であったり、新しい芸術を生み出していくお力添えをどうかお願いしたいと思います。ありがとうございました。